

# 令和元年度静岡県高等学校総合体育大会バスケットボール競技

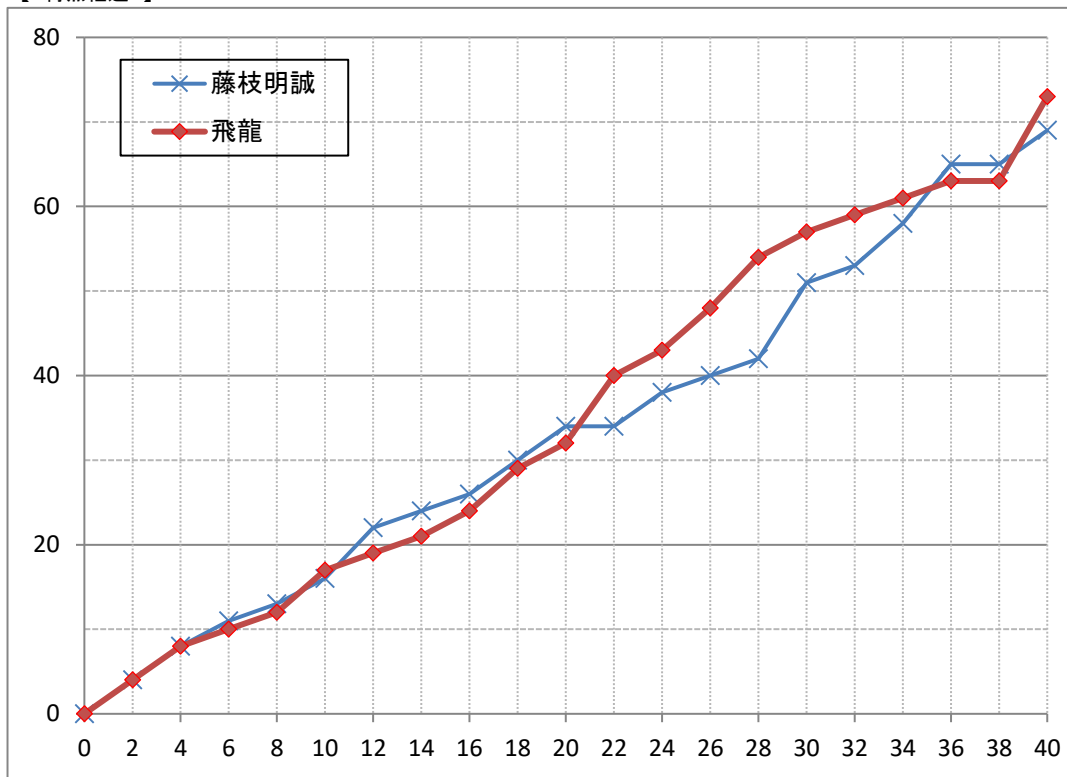
決勝リーグ	
試合日	2019年6月8日
会場	エコパアリーナ
コート	Aコート
開始時間	12:40

TEAM A		TEAM B
藤枝明誠 (中部)	69	73 飛龍 (東部)
16 - 17		
18 - 15		
17 - 25		
18 - 16		
OT		

TEAM A 藤枝明誠 (中部)							
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	DNP	高橋 佑 弥	0	0	0	0	0
5	*	中谷 陸 人	8	0	4	0	3
6	*	菊地 広 人	26	0	11	4	4
7	*	岩下 恵 達	14	1	4	3	5
8	DNP	松本 凌 汰	0	0	0	0	0
9		石橋 永 達	0	0	0	0	0
10		浜本 健 健	5	1	1	0	3
11	*	富永 優 也	2	0	0	2	3
12	DNP	柴垣 優 真	0	0	0	0	0
13	DNP	角野 俊 伍	0	0	0	0	0
14	*	OUMAR	4	0	2	0	2
15		KAMISSOKO	8	0	3	2	5
16	DNP	村松 慶 俊	0	0	0	0	0
17	DNP	藤澤 晴 琉	0	0	0	0	0
18	DNP	片山 恒 星	0	0	0	0	0
19	DNP	川越 大 輔	0	0	0	0	0
20	DNP	高野 敢 太	0	0	0	0	0
21		朝比 航 士 郎	2	0	1	0	2
TEAM/COACH			/	/	/	/	
TOTAL			69	2	26	11	27

TEAM B 飛龍 (東部)							
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		高須 崇 介	0	0	0	0	0
5		色 山 輝	0	0	0	0	0
6	*	松 井 翔	5	1	1	0	2
7	*	中山田 海 渡	22	2	5	6	0
8	*	保坂 晃 毅	18	0	7	4	4
9	*	鳥見 勇 敬	3	0	1	1	3
10		古大内 雄 梨	4	0	2	0	0
11		遠藤 涉 夢	0	0	0	0	1
12	DNP	佐藤 彩 人	0	0	0	0	0
13		番地 敦 也	4	0	1	2	1
14		三 橋 翔	2	0	1	0	0
15	*	リュウ ヤハオ	15	0	5	5	4
16	DNP	本橋 献 人	0	0	0	0	0
17	DNP	木場 稜 斗	0	0	0	0	0
18		櫻井 棕 介	0	0	0	0	3
19	DNP	斎 藤 大	0	0	0	0	0
20	DNP	山本 愛 哉	0	0	0	0	0
21	DNP	関口 就 斗	0	0	0	0	0
TEAM/COACH			/	/	/	/	
TOTAL			73	3	23	18	18

【 得点経過 】



【 戦 評 】

1Q 決勝リーグ最終戦、2勝同士の対戦で、勝った方が全国大会へ出場となる事実上の決勝戦である。両チームともにマンツーマンDEFでスタートする。飛龍⑦中山田のドライブで先制すると、すかさず明誠⑦岩下が3Pで反撃し、好ゲームを予感させる。明誠⑭オマールがリバウンドシュートを決めると、飛龍⑧保坂がバスケットカウントを決め、一進一退の攻防が続き、クロスゲームの様相を呈してくる。激しいリバウンド争いからお互いにかきみ、フリースローで加点し、第1Qは、明誠16—17飛龍となる。

2Q 飛龍はルーズボールをつかみ、⑬番地の飛込リバウンドで流れを引き寄せるが、明誠⑥菊池が連続ジャンプシュートを沈め、さらに⑮カミソコがブロックショットをするなどゴール下で存在感を発揮し、点差は3点以上に広がらない。飛龍⑦中山田が3Pを決めると、明誠⑦岩下の1on1でやり返す。さらに再び飛龍⑦中山田が3Pを決め、目まぐるしくリードが入れ替わり、まさにシーソーゲームの展開となる。飛龍⑬番地のオフェンスリバウンドが光り、流れが傾きかけるが、明誠⑥菊池の個人技で加点し、明誠34—32飛龍となり、1ゴール差で後半へ。

3Q 飛龍⑦中山田のドライブ、⑨鳥見のブレイクからのレイアップが決まり、4点差となったところで明誠はタイムアウトを取る。明誠⑭オマールのゴール下、⑤中谷の速攻で落ち着きを取り戻しかけたが、飛龍のテンポの速い速攻に明誠がついていけず、飛龍は⑥松井⑦中山田の3Pなどでじわじわ点差を広げ、12点までリードを広げる。飛龍はオフェンスリバウンドに果敢に飛び込むが、明誠は⑦岩下の1on1、⑩浜本の3Pで一矢報い、明誠51—57飛龍の6点差で最終クォーターへ。

4Q 開始1分を過ぎたところで飛龍はタイムアウトを取る。飛龍⑧保坂と明誠⑥菊池のやり合いになるが、菊池が7連続得点によって3点差、さらに⑮オマールのバスカンで一気に同点に追いつく。苦しい飛龍はリバウンドが取れずに、明誠は⑥菊池がバスカンのリバウンドシュートを決め、逆転に成功する。残り2分8秒、明誠65—63飛龍で、飛龍は2回目のタイムアウトをとる。直後に、飛龍⑮リュウのゴール下、⑧保坂の速攻からのバスカンで一気に逆転する。たまたま明誠はタイムアウト。しかし、流れは変わらず、飛龍⑩のドライブ、⑧保坂のテイクチャージで攻撃をつぶされ、再び、明誠はタイムアウトをとる。明誠⑥菊池のジャンプシュートで3点差に詰め寄り、飛龍は3回目のタイムアウト。飛龍⑩古大内が落ち着いてレイアップを決め、明誠はファウルゲームをしなくても、明誠69—73飛龍となり、勝負所で力を発揮した飛龍が優勝を飾り、インターハイの切符を手にした。

戦評(文責) 安田大佑(浜松商業高校) | 記入者 山内、藤江(袋井商業高校)